

「北部地区高齢者家庭菜園教室」

出水市高尾野町下水流2000-1

代表者：畠中 大喜

朝八時前。

「ガラガラガラッ。」初めに来た当番の人がシャッターを開ける。しばらくするともう一人の当番の人も来る。

「早かったな。」

「今、さきじゃった。」

当番二人が揃って菜園教室の開店だ。まず掃除から始める。



その後、品物の並べ具合をみたり、ストーブ（冬季だけ）に火をつけたり、水を汲んできてお湯を沸かしたりと朝のうちは忙しい。そのうち、他の会員が野菜などを持って来る。

「おはよう、どっさい持って来たど。」

「まこて、よか品じゃな。」

こうして1日が始まる。当番は来客に販売したり、お茶を出したり、焼きいもを食べさせたり、



お客の対応をする。客の中には

「これも100円ですか。」

と、あまりの安さにびっくりする人もいる。みると、袋にいっぱい詰めた品物だ。

午後になると残った品物を点検し、計算をする。夕方、農協から売り上げ金の集金に来るので渡す。5時、1日の終わ

りとなり、ホッとして、シャッターを締めて帰る。

以上が菜園教室の1日である。みんな高齢者で押し車で来る人もいる。しかし、畑仕事が好きで、長年の経験から野菜作りがうまく、よい野菜を作っている人が多い。

「この販売所がなくなったらどうしよう」という人ばかりだ。ここでは野菜、果物、花、苗物だけを販売し、加工食品は条件、規制が厳しいのでしていない。このことを守って、存続したいという全員の気持ちだ。

この菜園教室が立ち上がったのは、高齢者が栽培した農産物の残りを、安く販売できないかと、平成7年4月に公



有地の一面を借りて建てて今日まで続いている。当時は無人販売所だったが、お金が合わないなど



の問題が生じたので当番2人制になった。1品100円を原則として20パーセントを諸経費として差し引き、残り80パーセントは各自の口座に振り込んでいる。

成果としては、知らず知らずのうちに貯金できるので喜んでいることだ。また、野菜や花の作り方はもちろん、漬け物の作り方、他の人の健康状態など多くの情報を得ることができ、当番でない人も長い時間語り込んで楽しみ、生きがいだと言って健康の源になっていることだ。

現在、会員は35名で定期総会も4月に実施し、市役所の指導も受けている。

今後の課題としては、会員の高齢化に伴う現象である。65歳未満は皆無で、75歳以上が半数を占めている。会員の加入促進が最大の課題である。

高齢化が急速に進行しつつある現在、このような地道な活動の場があることは宝である。会員が農産物を持ち込むときの笑顔は最高の財産である。今後も「新鮮な安い野菜である」といわれる菜園教室を存続させたいものである。